
詩で考えて

お月さま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩で考えて

【Nコード】

N9416Q

【作者名】

お月さま

【あらすじ】

俺が思った事、感じた事をそのまま文字にできたかな？出来てたらしいな。出来て無くてもそれが俺の完成品だと思いたい。

それとマイペース進行です

叶い

いつも夢見たそれは 夢だった

叶えたいと思つてた やつてやるぞと望んでた

月日の先に待つ未来 いつかの思いはどこにも無い

忘れたんじゃない 諦めたんじゃない

出来ないんじゃない 見逃してきたんじゃない

確かにそれはここにある

月日の先に待つ未来 いつかの思いはどこにも無い

考えてない事はない 努力してない事はない

出来る事でもない 時期が無い事はない

確かにそれはここにある

いつも夢見たそれは 夢になり

叶えたいと願ってた やってやるぞと夢をみる

夢を叶えてなんになる いつかは思った日の事で

さあがんばろう さあ行こう

さあ上ろう さあ動こう

自分の心に嘆いてて

夢を叶えてなんになる いつも思ったその時に

ああ休みたい ああ戻りたい

ああ下がりた い ああ止まりたい

時間の流れが恐ろしい

いつも夢見たそれは 夢らしい

叶えたいと叶わない やってやるぞと思ってた

誰かのために善をいい それは偽善と投げられた

そうなの？ 違うの？

どうなの？ どうするの？

人の心を考えて

誰かのために悪といい それは善だと取られたよ

そうだよ！ 違うよ！

こうだよ！ こうするんだよ！

人の心が分からない

いつも夢見たそれは 夢だった

叶えたいと思ってた やってやるぞと望んでた

その思いはもう思えない

叶ってしまった喜びは もう一度とは思えない

望めない 夢の中

望みは叶わなかった

叶い（後書き）

叶えたがそれをもう一度望みたいという感じで書きました。

呼んでいただいております。

母の思い（前書き）

母の思い

元気な音が鳴り響く 母なる思いが呼び起こす

泣けど泣けども悲しみは いくらかもあるか母なる思い

喜びそこにはあるものか あるものなだと母なる思い

始まりはそこで 本当はもっと後で

母はそれに思いを託す

元気な音が鳴りに響く 母なる思いが呼び覚ます

動き動きは疲れなど いくらかもあるか母なる思い

悲しみそこにあるものか あるものなだと母なる思い

物語の行く末はまだ 本当はまだまだ後で

母はそれに思いを託し

元気な声が鳴り響く 母なる思いが呼び猛り

休み休みは事それは 母の特権母なる思い

余裕はそこにあるものか あるものなのだと母なる思い

物語の行く末はまだこれからで 本当にまだまだ後で

母はそれに思いを託しきり

元気な音が鳴り響く 母なる思いが呼び起こす

無限の流転次の第^{だい} 母なる思いは次の第

子供はまたも泣いたという

いじめ

いらぬ感覚を送られた 笑われながら 貴方から

自分に笑顔は浮かばない 君は笑っているのに

遠ざけたいけど それは出来ないから 僕は我慢を選んだ

僕は耐える いつか終わる時まで それを思うと涙がでてきた
すっかり僕は何かを奪われた それは時か それとも笑顔か

さあ笑おう 夢の道 その世界は笑いがあつて 裏切らない
そのなにを信じよう 笑顔か 悲顔か それとも夢か

泣きたい気持ち又叫ぶと 眼にはいつも水がある その味は気に出
来ない

助けを呼ぶ気持ちを叫んだよ でも音は出さない 出すと怖いから
誰か近くに寄ってきてよ そして許して なんでもいいから許して
そして笑って 僕は笑わないけど 貴方は笑つてて

頂うなだ垂れた僕の顔を覗いてよ そして笑って そしたら僕は笑える
僕の弱気に怒りはあるかい 正直に言つて 大丈夫それは俺もある

から

頑張れ それを僕は受け取った どうやら俺は頑張っていないらしい

目での助けて宣言 一人で頑張る苦しみ これからも
簡単理論 やるひといなきや やられるひとは いない

怒りの言葉を受け取った 恥辱の言葉を受け取った
簡単精神論 暴言は傷つく 相手は知らない精神論

気づけば僕は何かに 祈ってた 届く事の無い夢
祈りの力 それは行動がなきや 意味は無い

さあそろそろ時間がやってくる 見えぬタイムリミット
それは俺の終わりか 誰かの終わりか

俺が考えるこれは 人からもらった 理不尽理論

時の経過で 誰かが俺に 手を差し伸べる
それは人間か それとも他の生物か 僕にとってはすぎるもの

それは一体誰の手か 暖かった気がする

励まし（前書き）

この詩は、俺の女友達が載せてと言ってきた、男版に書きかえてな
ど言われたので、書きかえました。

ああ、このことは読者と俺との約束で……。

ああ、そうだ。これは地震の被災者に向けた詩です。

励ましあって頑張ろうと友は言っていました。

励まし

万の力 それは僕が考えて思うのは励まし

僕は それを不思議に思います

それで元気になる人がいれば

勇気が湧いてくる人がいるからです

元気になると 人は辛さを乗り越えて頑張ります

勇気がでると 人はその勇気を活用したくなります

元気に振舞って励まし

勇気をもって励まし

それは分けると増えるんです 少なくなりません

与えると 自分のも増えます きつと刻まれます

悲しみに負けるな その言葉は残酷と 人は言う

でも 僕はそれを言います 勝たなきゃなんです 負けちゃ駄目な
んです

勇気を持って元気を引き出し 人の頼りになり さらに辛い人々が
元気になるように

あなたが勇気を出してください 僕はあなたに文で勇気を送ります

届いてますか？ 受け止められますか？ 僕なりの必死です

励まされましたか？ 僕は今生きてるあなたに励まされました

努力 希望 あなたから受け取りました

この思い 届く事を願います

励まし（後書き）

偽善者などと、思ったりしたかたはいると思いますが、そんな事は
ありません。
気持ちはいっかりと善ですよ。

地震と勇者（前書き）

俺の体験談！？

そうです、俺の体験談です。

ちよつと話が2割ほど大きくなってない？ 俺の話。

2割どころじゃないよ、9割くらいだよ、俺！

ほぼですな。でも、ま。これは本当に思ったことだし、嘘ではないから偽善者ではないんだ。

地震と勇者

勇者は 常に気を高く持った者になれる

そう、それを父が言っていた。もちろん僕はそれを信じている。父が言ったことに、嘘だった事は一度もなかったから。

そして今回、大規模な地震が人を奈落の底に落とすかのように襲った。

僕も地震が怖かった。震えはしないけど、心の安寧はなく、不安が常に自分の脳に駆け巡った。

そして、僕は思い出した。勇気を。

周りで地震だよと、不安を和らげようと笑う人中、悲鳴が不安を生む中、僕は真顔で言った。

「落ち着いて。落ち着いてこの地震を無事に終わらせよう」

結果はそうでもなかった。

いや、僕らは無事だった。だけど、酷い所では僕の想像を遥かに

超えた事件が起きていた。時は流れてから10mを越える大きな津波、倒壊した家に埋もれて助けを呼ぶ人の思い。

なにもかもが地獄と感じた。助けたい、そう何度となく思った。

だが、それは遙かなる距離の場所であって、助けになど行けなかった。消防や自衛隊に任せるしかないのだ。

ならば自分はどうすればいいのか。募金しようにも、家庭は苦しく、自分の金はなく。

やるせないほどに自分の弱さを感じて、悩みに悩んだ末には祈るしかなかった。

「無事でありますように、再会という奇跡が生まれますように」

心から思った言葉ではあったが、それは届くのかはまったくもって不明。届いてくれたと信じたい。でも、分からないから悔しい思いが心を過った。なら、どうにかしてしっかりと届けるしかないだろう、なんとかするしかないだろう。

自分にとって、一番届くかもしれないと思ったのは『ネット』というものだった。PCを使って、なんとか届けようとした。

被災地だとPCは使えないかも知れない。そんなのは分かりきってる。でも、1人でもPCが使える人がいたとして、それを皆に伝えられる人がいたとして、俺はそれに賭けるしかないのだ。

可能性は無い事はない。

書き込むと「偽善者」「偽善者」「偽善者」と派手に叩かれた。すごく辛いもんだ、思いを文字にして伝えても「嘘つき」と返されて「偽善者」と叩かれる。

もちろんそれは被災者ではないのだろう。いや、分からない。

そして、また僕は思い出した。勇気を。

僕は懲りずにまたはじめた。皆、賛否両論だ。

勇気から元気が生まれる、元気から希望が生まれる、希望から励みが生まれ、励みからは勇気が生まれる。

僕はそれを知っていた。そして、なんとかしてそれを皆に伝えたい。誰かに届けたい。

それが誰かに伝わった時、それはきつと………勇者の一步を踏んだ時なんだろう。

………勇者は、常に気を高くもった者がなれる。

地震と勇者（後書き）

俺は偽善者と言って人を罵る人が嫌いだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9416q/>

詩で考えて

2011年5月19日05時44分発行